



巻頭言

私と大学セミナーハウスとの係わり

大学セミナーハウス 理事
小川 哲生

大学セミナーハウスは、1965年に設立され来年創立50周年を迎えます。私事ですが、筆者は1965年に大学に入学しました。セミナーハウスが設立された年に入学したわけです。大学入学当時、多くの大学はいわゆる大学紛争が盛んでした。今では死語となりつつある「全学連」が全国的に勢いを帯びている時代でした。「全学連」と称するぐらいでしたから、そこに集まる学生は、それこそ国公立の区別なく、全国の各大学の学生から組織されていました。その頃、学生運動とは全く別な意味で国公立の壁を超えたネットワークを作り、様々な学生が集い、ある特定のテーマに沿って議論を行う学生間の知的交流を目指す動きがありました。セミナーハウスは真にその場を提供するために設けられた施設でした。筆者が在学中に教わった哲学教授の川原栄峰先生は、セミナーハウスの活動に大変熱心に関わり、先生の誘いもあり、何回か合同セミナーに参加しました。時代を反映してか、参加者の多くは熱弁を振るい熱気のあるものでした。そこで得た知的好奇心は今でも忘れることはありません。後年、セミナーハウスの評議員会の席で川原先生にお会いでき、先生はその当時の話を大変懐かしがっておられました。

大学教員になってからは、セミナーハウスをよく利用させていただきました。勤務校が近かったことと、利用料金が安かったこと、それから何と言ってもアルコール付き宴会に当時は厳しかったこと等の理由により、大学1・2年次生のゼミ宿は殆どセミナーハウスで行いました。年に数回の利用でしたが、食事や休憩の時間に他大学の先生方とお会いできるのが楽しみの一つでした。合同セミナーは、年何回か行われましたが、年々参加者が少なくなり、議論も

より冷静になり、筆者は少し寂しい気分となったものです。

多摩地域にある大学、企業及び地方公共団体との連携により、各々の機関や組織の活性化と地域の活性化を目指すために組織された（公社）学術・文化・産業ネットワーク多摩の会長の任に6年ほど前から就くことになりました。同組織の活動とセミナーハウスの活動は、大学間交流等の促進をはじめ、重なることが少なくないので、この数年前から共催事業を行うことになりました。「大学教員新任研修」がその始めです。今後も両者が連携しながら新たな事業ができればと思っています。そうこうしているうちに、昨年にセミナーハウスの理事に選任されました。選任の理由はおそらく、筆者の自宅がセミナーハウスから徒歩20分程度であり、理事会に参加しやすいからではないかと密かに思っています。設立50周年を迎え、「大学セミナーハウスビジョン2015」を確実に実行していくことに少しでもお役に立てればと思っています。

この50年の間に、セミナーハウスとは、学生として、教員として、末端ではありますが経営者として係わってきました。筆者の人生に少なからず意味をもたらせてくれます。セミナーハウスの役割は、時代と共にその内容が変わってきましたが、セミナーハウスを利用する人には各々の理由があったとしても、各々の意義があります。時代変化に適応しながらセミナーハウスの今後ますますの発展を願ってやみません。

●小川 哲生（おがわ てつお）プロフィール

略歴：

- 1946年 東京生まれ
- 1975年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程（教育学）単位取得満期退学
- 1986年 明星大学講師、助教授を経て教授
- 2008年 人文学部長、副学長を経て学長
- 2013年 （学）明星学苑副理事長
- 兼職：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩会長、公益財団法人大学セミナーハウス理事 その他

<セミナーハウスニュースNo.186主な内容>

巻頭言「私と大学セミナーハウスとの係わり」	1
開館50周年記念事業経過報告・2014年度開催セミナーご案内	2・3
2013年度セミナー報告	4
法人ニュース	5
ご利用の先生より	6
千人会通信	7
職員紹介・館長室から	8



開館50周年記念事業経過報告

50周年記念事業の進捗状況について —食堂棟の建設業者決定—

■食堂棟の建設について

これまで、建設会社7社に声を掛け、交渉してまいりましたが、最終的に、3月の理事会及び評議員会において、地元の相羽建設に決定いたしました。セミナーハウスの希望でもありますシンプルな構造で、豊かな自然との調和、環境への配慮を生かした多摩地域の木材を使った木造建設を提案してきたことを評価しました。1階平屋建て、座席数最大270席、木造、屋根にソーラーパネルを設置する予定です。立地は、交友館とバーベキュー広場の間の高台に建設を予定しております。眺望に優れ、晴れた日には富士山が眺められ周辺の美しい夜景を楽しむこともできます。緑あふれる敷地内で、木の香りが漂う新食堂棟は、ゼミ合宿や研修の疲れをいやしてくれると思います（イラスト参照）。

内部空間をパーティションで仕切ること、複数の懇親会が同時にできるスペースを確保できますし、食堂棟と隣接してバーベキュー広場を作りますので、これまで以上に使いやすくなります。着工は2015年で、竣工は2016年となる予定です。

これからは食堂業者の選定に入りますが、選択肢のあるメニューを含め、今まで以上のサービスを心掛けていきたいと存じます。

■既存施設のリニューアルについて

資金上の限界から、既存施設のリニューアルについては、講堂と長期館Bに限定しました。講堂は、寒さ

対策を含め風除室を設けることと、防音対策の観点から2重サッシにするなどの改修を行います。これまで音の出る研修を行う場合中央セミナー室しかありませんでしたが、今後はより広い講堂も使えるようになります。出来れば2014年度中に改修を行うことを予定しております。長期館Bは、女性専用浴室の改修とパウダールームの設置等を図るとともに、外壁の爆裂の補修を行います。女子学生にとって快適な入浴ができるように計画しております。

なお、記念館の湿気と防臭対策として、エアコンをすべて新しいものに取り換えましたので、除湿効果が上がりましたことを申し添えます。

■体験型研修プログラム（SPA：セミナーハウス・プロジェクトアドベンチャー）の開発及び展開

50周年記念事業の一環として、今年度は第一期として、7基のエレメントを多目的広場に設置しました。このエレメントをツールに、大学教育の一環として、挑戦、思いやり、当事者意識、課題解決能力、他者との連携をキーワードに、コミュニケーション力やチームワークづくり等、ゼミ合宿、クラブ活動、新人研修等にご活用ください。今年度は第一歩ですが、当方でファシリテータをご用意いたしますので、担当者でご相談ください。



▲「チームトライアングル」ワイヤーを渡って目的地へ。頼みの綱は仲間の手。

■募金活動について

上記3つの事業を展開する資金として、借入金1億8,000万円を中心に、寄附金を少なくとも4,000万円以上は集めたいと考えております。現在1,000万円を超えたところで、これまで加盟各大学様や千人会の皆様のお寄附に負うところが大きいです。この場をお借りして御礼申し上げます。今年度は企業様を中心にお願いをしまいたる所存ですが、皆様の一層のご協力をお願い致します。



▲食堂パース

開館50周年記念事業寄附金 寄附者ご芳名

八王子セミナーハウス開館50周年記念事業へ温かいご支援を賜りました皆様へ心より感謝申し上げます。ご芳名を五十音順にてご紹介いたします。

今号には2013年10月1日から2014年3月31日までのご寄附を対象として掲載しております。なお、ご芳名の掲載を希望されていない方については掲載しておりません。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

○寄附者ご芳名(学校法人)

明治大学 様 法政大学 様
早稲田大学 様 中央大学 様

○寄附者ご芳名(企業・団体)

社会保険労務士法人山本労務 様
(株)テクノヒューマンパワー 様

○寄附者ご芳名(個人)

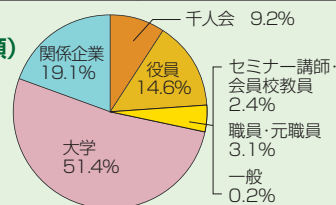
外立 鉄夫 様 有山 正孝 様 上野 芳康 様
間野 和明 様 八幡 義博 様 絹川 正吉 様
慶谷 壽信 様 毛塚 博史 様 飯野 訓征 様
椿 弘次 様 林 卓男 様 森 久 様
戸張よし子 様 乾 康子 様 鈴木 康司 様

開館50周年記念事業寄附金状況

平成26年3月28日現在

区分	件数	寄附金額
個人	98	2,955,000
学校法人	11	5,150,000
企業・団体	10	1,910,000
合計	119	10,015,000

■内訳構成費(全額)



○資料請求・募金のご案内 お問い合わせ下さい。

総務直通TEL: 042-676-3081

総務直通FAX: 042-676-4734

E-mail: iush50bokin@seminarhouse.or.jp

2014年度開催セミナーのご案内

申込み受付中 (2014.4月～)

大学セミナーハウスでは、国公私立大学の学生及び教職員の皆さまの相互交流と、高等教育・研究の成果を社会に広く普及するために大学共同による各種のセミナーを開催しております。今年度、すでにいくつかのセミナーは参加者を募集しております。ぜひご検討ください。

※詳細、お申込みはHPをご覧ください。

◇第30回大学職員セミナー 大学職員の可能性！ — 大学改革を牽引する職員を目指して！ —

日程 7/11(金)～7/12(土) 1泊2日

ワークショップでの議論・発表を中心に、事例報告・講演や情報交換を通して、以下を実現することを目的とします。

- *大学の抱えている課題の検討を通して職員の役割を考える。
- *課題解決能力とプレゼンテーション力を涵養する。
- *ヒューマンネットワークを構築する。
- *他大学の取り組みや大学を取り巻く環境の最新情報を得る。

◇第9/10回教員免許状更新講習 「教育の最新事情」「教育内容の充実」

日程 第9回: 8/2(土)～8/5(火) 第10回: 12/24(水)～12/27(土)

必修12時間、選択18時間(計30時間)の教員免許状更新講習を4日間の短期集中講座で履修できます。ベテラン講師によるホットな教育問題への真摯な応答、全国の小中高先生方の相互交流も好評をいただいています。

◇第4回新任教員研修セミナー

日程 9/1(月)～9/3(水) 2泊3日

多様な学生が大学教育を受ける機会が飛躍的に拡大した今日、学生の意欲を高め、能動的な学びを通して自ら課題を発見して解決する力を培うことは、大学教員に課せられた最も重要なテーマです。新任教員研修セミナーでは、国公私立大学の枠を越えた合宿形式の相互研修により、新たな時代にふさわしい大学教育のあり方を探ります。

◇留学生論文コンクール2014 テーマ「私が考える地球的問題」

論文応募締切日 10/15(水) 入選発表日 11/15(土)

応募資格: 日本の大学(学部・大学院)に在籍している留学生

<今後の開催予定>

セミナー名	日程
第3回EUセミナー	9/19(金)～21(日)
総合アートセミナー — デジタルアートセミナー#3 —	10/11(土)～12(日)
第11回古代史セミナー～古田先生を囲んで～	11/8(土)～9(日)
第41回国際学生セミナー ～故中嶋嶺雄先生追悼セミナー～	11/22(土)～23(日)
第31回大学職員セミナー	11/28(金)～29(土)



2013年度 開催セミナー報告

〈大学生を対象としたセミナー〉

セミナー名	日程	テーマ	講師・企画委員	参加者数
第40回国際学生セミナー	11/16(土)～17(日)	新時代の東アジア国際関係 ——日米中、 そしてASEAN——	渡邊 昭夫 (東京大学名誉教授) 大庭 三枝 (東京理科大学准教授) 清水 一史 (九州大学大学院教授) 中山 俊宏 (青山学院大学教授) 川島 真 (東京大学大学院准教授)	28
第2回EUセミナー	9/20(金)～9/22(日)	EU危機を越えて ——ユーロ、連帯、 ソーシャル・ヨーロッパ——	アルブレヒト・ロタハー (駐日欧州連合代表部政治経済部公使参事官) 渡邊 啓貴 (東京外国語大学大学院教授) 押村 高 (青山学院大学教授) 小久保康之 (東洋英和女学院大学教授) 田中 素香 (中央大学教授・日本EU学会理事) 中西優美子 (一橋大学大学院教授) 蓮見 雄 (立正大学教授) 福田 耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授)	73
デジタルアートセミナー#2	10/5(土)～10/6(日)		藤本 直明 (東京工芸大学非常勤講師) 田所 淳 (千葉商科大学非常勤講師) 神田 竜 (サウンドアーティスト/プログラマー) 赤川 智洋 (アーティスト)	54
絵と物語セミナー	2/8(土)～2/9(日)	プロ作家と学ぶ絵本・児童文学	菅野 雪虫 (作家) 濱野 京子 (作家) 中谷 靖彦 (作家) やぎたみこ (作家) 陣崎 草子 (絵本作家、歌人、イラストレーター)	37

〈留学生論文コンクール〉

セミナー名	日程	テーマ	審査委員	参加者数
留学生論文コンクール2013	応募締切 10月15日 入選発表 11月15日	私が考える地球的問題	荻上 紘一 (大妻女子大学学長) 鈴木 康司 (大学セミナーハウス館長、元中央大学学長) 花澤 聖子 (神田外語大学教授) 松田 康博 (東京大学東洋文化研究所教授)	75 (入選) 金賞1 銀賞2 銅賞3

〈大学教職員を対象としたセミナー〉

セミナー名	日程	テーマ	講師・企画委員	参加者数
第3回新任教員研修セミナー	9/2(月)～9/4(水)		村山 光子 (明星大学学生サポートセンター長) 荒木 晶子 (桜美林大学教授) 生田 茂 (大妻女子大学教授) 井下 理 (慶應義塾大学教授) 菊地 滋夫 (明星大学教授) 史 傑 (電気通信大学教授)	37
第28回大学職員セミナー	6/29(土)～6/30(日)	大学職員の挑戦と実践 ——企画立案実践のできる 職員をめざしてI——	西川 幸穂 (立命館大学総務部長) 浅田 和伸 (文部科学省高等教育局高等教育企画課長) 横田 利久 (中央大学横浜山手改革推進室担当部長) 山本 眞一 (桜美林大学大学院教授) 近藤 清之 (法政大学入学センター部長) 青木加奈子 (東京経済大学学務部学務課)	42
第29回大学職員セミナー	11/29(金)～11/30(土)	大学職員の挑戦と実践 ——企画立案実践のできる 職員をめざしてII——	外村 幸雄 (中央大学キャリアセンター部長) 山本 雅淑 (大正大学人間学部教授) 横田 利久 (中央大学横浜山手改革推進室担当部長) 山本 眞一 (桜美林大学大学院教授) 近藤 清之 (法政大学入学センター部長) 青木加奈子 (東京経済大学学務部学務課)	31
SPA(セミナーハウス・プロジェクト・アドベンチャー)コース体験会(会員校限定)	10/19(土)		松岡 信之 (元国際基督教大学教授) 林 壽夫 (プロジェクトアドベンチャー・ジャパン代表) 杉村 厚子 (プロジェクトアドベンチャー・ジャパン)	16

〈その他のセミナー〉

セミナー名	日程	テーマ	講師・企画委員	参加者数
第10回古代史セミナー	11/9(土)～11(日)	日本古代史・新考・自由自在 (その6)	古田 武彦 (歴史学者) 荻上 紘一 (大妻女子大学学長)	96

〈教員免許状更新講習〉

講習会名	日程	テーマ	講師	参加者数
第7回教員免許状更新講習	7/31(水)～8/3(土)	教育の最新事情 教育内容の充実	安田 忠郎 (教員免許更新センター長) 高垣マユミ (実践女子大学生活科学部教授) 鳥澤 元晴 (早稲田大学大学院教職研究科客員教授) 山内 芳文 (筑波大学名誉教授) 荒木 晶子 (桜美林大学リベラルアーツ学群教授) 小川 彩子 (元州立シンシナティ大学UCBA准教授) 吉田 真史 (東京都市大学知識工学部教授) 山脇由貴子 (東京都児童相談センター児童心理司)	59
第8回教員免許状更新講習	12/24(火)～27(金)	教育の最新事情 教育内容の充実	安田 忠郎 (教員免許更新センター長) 高垣マユミ (津田塾大学国際関係学科教授) 鳥澤 元晴 (早稲田大学大学院教職研究科客員教授) 山内 芳文 (筑波大学名誉教授) 荒木 晶子 (桜美林大学リベラルアーツ学群教授) 小川 彩子 (元州立シンシナティ大学UCBA准教授) 吉田 真史 (東京都市大学知識工学部教授) 山脇由貴子 (東京都児童相談センター児童心理司)	55

☆詳細は、ホームページをご覧ください。 <http://www.seminarhouse.or.jp>

☆セミナーに関するお問合せ・お申し込み TEL.042-676-8532 FAX.042-676-1220 E-mail:seminar-g@seminarhouse.or.jp

理事会報告

- ◎開館50周年記念事業の内容固まる
- ◎食堂棟の建設業者決まる
- ◎平成26年度事業計画決まる
- ◎平成26年度予算決まる

第11回（平成25年度第2回）理事会が、平成25年11月6日（水）午後4時30分～7時15分の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席理事7名（理事総数10名）、出席監事1名の参加のもと、開催され、食堂棟の建設業者の件以外全議案滞りなく承認されました。

議案は以下のとおりです。

- 開館50周年記念事業について：主に建設業者の選定に

平成26年度 収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで 単位：千円

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	5	5	0
特定資産運用益	5	5	0
事業収益	186,398	182,410	3,988
受取補助金等収益	200	0	200
受取会費・寄附金収益	54,510	50,450	4,060
雑収益	5	5	0
経常収益計	241,123	232,875	8,248
(2) 経常費用			
事業費	217,169	207,621	9,548
管理費	11,157	10,996	161
経常費用計	228,326	218,617	9,709
評価損益等調整前当期経常増減額	12,797	14,258	△1,461
当期経常増減額	12,797	14,258	△1,461
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	1,000	△1,000
当期経常外増減額	0	△1,000	1,000
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	12,797	13,258	△461
一般正味財産期首残高	866,349	853,091	13,258
一般正味財産期末残高	879,146	866,349	12,797
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	12,000	5,000	7,000
一般正味財産へ振替額	6,990	0	6,990
当期指定正味財産増減額	5,010	5,000	10
指定正味財産期首残高	5,000	0	5,000
指定正味財産期末残高	10,010	5,000	5,010
III 正味財産期末残高	889,156	871,349	17,807

ついて検討、決定を次回に持ち越した。

- 評議員会運営規程の制定
- 理事会運営規程の制定
- 経理規程の改正
- 施設利用料金等規程の改正
- 留学生会館運営規程の改正
- 消費税の取扱について
- 基本財産の一部変更について
- 評議員会の日程設定について

第12回（平成25年度第3回）理事会が、平成26年3月14日（金）午後5時～6時30分の間、大学セミナーハウスにおいて、出席理事6名（理事総数10名）で開催され、全議案滞りなく承認されました。

議案は以下の通りです。

- 開館50周年記念事業について：食堂棟の建設業者を地場産業である相羽建設に決定。自然豊かな環境の中、眺望のよい立地に、平屋建ての木造建設。
- 開館50周年記念事業としては、食堂棟の建設の他、講堂および長期館Bのリニューアルとプロジェクトアドベンチャーの導入を進めることを決定。食堂棟は、2015年起工、2016年竣工を目指す。
- 平成26年度事業計画を決定
- 平成26年度予算を決定（予算概要参照）

評議員会報告

第3回（平成25年度第2回）評議員会が、平成26年3月25日（金）午後4時～6時の間、桜美林大学四谷キャンパスにおいて、出席評議員9名（評議員総数16名）、理事長、館長および専務理事陪席のもとで、開催されました。

議案および報告事項は以下のとおりです。

- 議案：開館50周年記念事業について：食堂建設業者及び資金の範囲及び50周年記念事業の内容を確認。バリアフリー、窓の2重サッシおよび加盟大学の校章の展示等についてご意見をいただいた。
- 報告：平成26年度事業計画について
- 報告：平成26年度予算について
- 報告：平成25年度後期事業執行状況について

ご利用状況

平成25年度 宿泊業務報告

◆年間の宿泊利用者数 31,651人

平成25年度の宿泊利用者数は31,651人で、前年度が30,196人でしたので1,455人の増加でした。

上期は、18,694人（前年18,708人、前年比99.9%）と、ほぼ前年並みで推移しました。

一方、下期は利用促進が例年の課題であるため、国民体育大会の誘致や各種プランの販売を行いました。その結果、12,957人（前年11,488人、前年比1,469人増の112.8%）で終了しました。

26年度は消費税増税に伴う景気への影響が不透明ですが、引き続き、各種プランの販売とASEAN留学生の獲得等により、利用促進を図って参ります。

◆区分別利用状況

宿泊延人数全体の占める区分別の構成比は表1、図1に示す通りです。

表1 宿泊延人数

区分	平成25年度		平成24年度	
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比
会員校	19,142	60.4%	16,566	54.9%
一般校	7,654	24.2%	7,495	24.8%
社会人	4,290	13.6%	5,329	17.6%
主催セミナー	565	1.8%	806	2.7%
合計	31,651	100.0%	30,196	100.0%

利用区分比率は会員校で前年比+5.6%、一般校▲0.6%、社会人▲4%、主催セミナーは▲0.9%になりました。教育関係の占める割合は86.5%となりました。

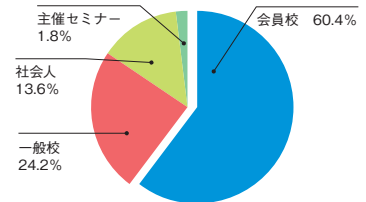


図1 利用区分構成比

◆宿泊の年間稼働率は31.4%

本年度のセミナーハウスの営業日数は、360日で、宿泊室（宿泊定員280人）の年間平均稼働率は31.4%でした。

尚、ご参考までに本年度最多利用会員校を紹介します。（表2）

表2 協会会員校最多利用10校

順位	大学名	宿泊延人数(人)	順位	大学名	グループ数
1	創価大学	1,379	1	首都大学東京	36
2	首都大学東京	1,053	2	中央大学	34
3	中央大学	1,090	3	日本大学	32
4	日本大学	805	4	早稲田大学	27
5	明治大学	804	5	明治大学	25
6	東洋大学	775	6	帝京大学	24
7	早稲田大学	697	7	創価大学	23
8	帝京大学	673	8	法政大学	20
9	法政大学	611	9	青山学院大学	18
10	青山学院大学	577	10	東洋大学	17

いまは懐かし、毎年二回のゼミ合宿

埼玉大学名誉教授 福岡 安則

春が近づいてくると、そろそろ「ゼミ合宿」だなと、気がそぞろめき始める。

1992年6月に埼玉大学に赴任して、その年、夏のゼミ合宿は、たしか河口湖畔の施設を利用したが、ゼミ生の半分が新宿の集合場所に約束の時間に現れない。それに懲りて、近場で現地集合に限ると意を決し、以来「ゼミ合宿」には、もっぱら八王子の「大学セミナーハウス」を愛用させていただいた。春は一泊二日、夏は二泊三日。しかし、この年中行事も、わたしが2013年3月末で埼玉大学を定年退職となり、一年間だけは非常勤でゼミをもっていたので、2013年の夏に最後のゼミ合宿をやったが、それもお仕舞いとなった。ちょうど20年、ほぼ40回、お世話になったことになる。



最初のころの記憶として残っているのは、朝昼晩三食ともに「ニラ」が出て、いささか閉口したということだ。しかし、食堂の両サイドを見ると、「思想は高潔に、生活は質素に」「Plain Living and High Thinking」と、ワーズワースのことばが、ご丁寧に英語と日本語でそれぞれ額に掲げられている。これには、まいりました。文句の言いようがない。—でも、この記憶は、1990年代前半だったのか、それとも、1960年代後半にわたしが自分のお師匠さんの見田宗介先生に連れられて、セミナーハウスに来たときの体験だったのか、いまは定かではない。

ただ確かなのは、わたしのゼミ合宿のやり方は、見田先生のやり方をそのまま踏襲したものだから、朝から夜まで「勉強」だけ。遊びの時間がゼロだということだ。一度だけ、埼玉大学の協定校、オーストラリアのモナシュ大学からの交換留学生に、面と向かって、「勉強だけで遊びの時間を設けないのは、間違っている」—ひょっとしたら、彼女は「人権侵害だ」という表現を使ったかもしれない—と抗議され、じゃあ、と、午後の2時間を「自由」にした覚えがある。何人かの学生たちは、その時間にテニスにうち興じたようだ。わたしは、もちろん、昼寝をした。

わたしが「ゼミ合宿」に際して、かならず学生たちに言ったのは、「大切なのは、自分のレポートを報告するだけではなくて、他の学生たちのレポートを、そのテーマを自分だったらどう展開するかという構えで聞くこと。囲碁の岡目八目ではないけど、ひとのレポートの弱点はよく見える。友達のレポートは、褒めるものではなく、批判するものだ。その批判の言葉が自分に返ってくることで、社会学をする方法が磨かれていく」ということだ。

普通の学生は、三年の春、三年の夏、四年の春と三回の「ゼミ合宿」を経験する。この三回を、わたしの言葉を受け止めるかたちで参加した学生たちは、みんな、見事な卒論を書き上げて卒業していった。なかには、事情はあったのだろうが、日帰りで自分のレポートを発表するだけという、ちょっと横着な参加の仕方だった学生たちもいた。そういう学生が「いい卒論」を仕上げることは、まずなかった。

そうそう、セミナーハウスの大事な思い出が、もうひとつある。1994年12月に、セミナーハウス主催の二泊三日の「第



165回大学共同セミナー」を、佐伯胖先生とわたしが運営委員として、佐藤郁哉氏、茂呂雄二氏、山崎敬一氏とならんでわたしも講師として加わり、「フィールドワークの実際」というセミナーを開催したことだ。わたし自身は、そこで「生活史の聞き取り」というプレゼンテーションをおこなったが、このときのノートが元になって、『聞き取りの技法—〈社会学する〉ことへの招待』（創土社、2000年）という本を出すこともできた。

大学セミナーハウスは、わたしの大学教員生活にとって思い出深い場所のひとつである。わたしがゼミ生と一緒にセミナーハウスを訪ねようと訪ねまいと、本館の真ん前の枝垂れ桜は、きれいな花を咲かせているにちがいない。



会費をありがとうございました

2013年10月～2014年3月 (敬称略)

10月 末松安晴、野崎昭弘、木畑洋一、川鍋正敏、滝口 亨、牧内 操、米満 澄

11月 宇野重昭、戸張よし子、熊川 忠、酢屋善元、大須賀節雄、福井憲彦、近藤 保

12月 鈴木順子、池田 温、山岸 健、中野斉子、有山正孝、稲持教昭、横沼健雄、三浦安子、生山智己、岡崎 正、青柳総太郎、吉田 豊、川端香男里、小谷正博

2014年1月 小和田 恆、後藤敏明、堀井啓幸、上田明子、川崎正三、大澤恵美子、鈴木 皇、前川真理、慶谷壽信、常行敏夫、大森東亜、柳澤富雄、石川道夫、出光直樹、海老沢信一、新井 明、白井克彦、池井 優、中村正一、本田和子

2月 風間邦光、北原文雄、新保清子、柳父閑近、中村妙子、肥前榮一、泉 敏彦、小川彩子

3月 小林一彦、松山正男、高松正昭、蓮見音彦、絹川正吉、森 久、勝見允行、磯 直道、広内哲夫、小幡史朗、佐藤公孝、島田治夫、柴田泰比古、福田一郎、飯野訓征、竹村五夫

会員からのメッセージ

◆誕生日のお祝いの言葉、ありがとうございます。これからの時代の人たちに役立つ施設であり続けて行けますように、と願っています。 熊川 忠

◆お誕生日のカードありがとうございます。送金が遅くなり申し訳ございません。高齢になること、そして、「忘れること」の光と影をかみしめつつ、日々、時間をいとおしみつつ、なんとか無事に過ごしております。 鈴木順子

◆大学セミナーハウスの設立にあたっての会議に出席した日がありましたが、その時のことが昨日のことに思い出されます。元気で活動しております。 山岸 健

◆おかげ様で今年も誕生日を迎えられました。感謝しています。大学セミナーハウスのますますの御発展をおいのりいたしております。 横沼健雄

◆セミナー・ハウスがこれからもいよいよ、知の探究とコミュニケーション力の育成という使命を果たして下さいませようお祈り申し上げます。 三浦安子

◆誕生日を無事迎え、千人会会費をお支払

いたします。セミナーハウスのますますのご発展を祈念申し上げます。 岡崎 正

◆50周年に向けて、更なるご発展を。 青柳総太郎

◆千人会会費をお送りします。先人の志の高さをあらためて感じています。御発展を祈っています。 小谷正博

◆バースデーカードをありがとうございました。本年もよろしく願います。 堀井啓幸

◆2015年には開館50周年とのこと、おめでとうございます。50年という永い時間の中に積み重ねられたこと、それを可能にした多くの方の精神と努力を、あらためて尊いことに思っております。 前川真理

◆セミナーハウスで八王子にお越しの皆様。ミシュランガイドの高尾山、人気の八王子ラーメン…。お帰りにぜひどうぞ。 海老沢信一

◆また貴ハウスに宿泊できることを楽しみにしております。ますますのご発展をお祈りいたします。 中村正一

◆94歳になりました。脚が弱ってきていま

すが、10年余りに始めた化学史の勉強を急がずに続けています。 北原文雄

◆現在老健の立ち上げの仕事についています。貴セミナーハウスはS59年から参加しています。知的出会いの場、地域に開かれた研究の場に微力ながら参加して行きたいと思えます。 小林一彦

◆大学セミナーハウスの発展を心よりお祈り申し上げます。 松山正男

◆大学セミナーハウスのますますのご発展を祈りあげます。早稲田大学大学院時代に故染谷恭次郎先生のゼミで、また、大学に奉職してからはゼミ生とともに利用させていただいたことを懐かしく思い出しています。今年で72歳になりました。 高松正昭

◆三大病をかかえながら、東北支援の奉仕も三年に入りました。神のご恩寵のたまものと感謝。 小幡史朗

◆誕生日を憶えてくださり、有難う存じます。(77歳です。)50周年募金にも応募しております。 島田治夫

◆“大学セミナーハウス”の益々の発展を！ 福田一郎

セミナーハウスニュース担当より

186号の編集にあたり、千人会の皆様のお名前の中に、懐かしい先生のお名前を拝見しました。私が新卒で職員として入職した大学で教鞭をとられていた先生で、今はふるさとの大学でご活躍されていると伺いました。当時、学生さんをともなって、たびたびセミナーハウスにお泊まりいただいたそうです。私はその頃、セミナーハウスの存在を知らなかったのですが、長い時間を超えて社会人になったばかりの頃の思い出をよみがえらせてくれたセミナーハウスと千人会に改めて感謝しています。

セミナー・留学生グループ：相馬



▲春の八王子セミナーハウスの様子

職員紹介



総務グループ
外立課長

総務グループ課長の外立鉄夫です。

セミナーハウスは来年(平成27年)に、法人として公益財団法人に移行後5年目、施設を開館して50年目を迎えます。

総務とは、法人のコンプライアンスや数字の羅列を、額に皺を寄せながら終始ながめているところのイメージがありますが、このような節目を機に、利用者の憩いの場として、菜の花／芝桜／コスモスなど、セミナーハウスの里山風景に合うお花畑の一角を作りたいと思っております。

そして、今後50年、この法人が維持できるような施設や管理体制を構築していきたいと考えています。



総合戦略グループ/
セミナー・留学生グループ
本郷課長

この4月より、総合戦略グループおよびセミナー・留学生グループでお仕事をさせていただくことになりました本郷と申します。

と申しまして、私は十数年前、セミナーハウスの企画室でお世話になっておりましたので、これで2回目の勤務となります。久しぶりのセミナーハウスはやはり圧倒的な自然の美しさが健在で、今ちょうど枝垂れ桜が満開の中、生き返る思いで仕事をさせていただいております。

来年50周年を迎えるセミナーハウスが、豊かな自然の中で、学生・教員が国・公・私立の大学の垣根を越えた知的交流をさまざまな形で実現できますよう、そのお手伝いをさせていただきたいと存じます。どうぞ宜しくお願いいたします。

館長室から 台湾の旅

2月下旬、中大学員会日華友好協会の人々と、4泊5日の台湾旅行をして来ました。中大に学ぶ台湾留学生たちを支援するこの会は10年前から台北にある蒋介石総統を祭る「中正記念堂」に日本の桜を植樹し続けています。今年は節目の年で記念の観桜茶会と、漁港である宜蘭市で新たに桜植樹を行いました。

2011年以降は特に、東日本大震災の折、外国からの義捐金ではとびぬけて多い200億円、2位の国の4倍以上という大金を送ってくれた台湾の方々に、民間人としても何か恩返しをしたいという気持ちで続けている行事です。台湾の方々にも歓迎されて毎年、気持ち良い旅をしています。

政治上は国交がないとはいえ、日本に親近感を持ち、かつ、台湾総督府時代に、社会のインフラ整備や経済発展のために尽くした日本人の業績をきちんと認めて顕彰してくれている台湾の方々に対して、震災後の1周年事業に際し、中国政府に気兼ねして礼を失した対応しかなかった当時の日本政府は、忘恩の徒と言われても仕方ありません。民間人でも人の道に外れたことだけはしたくないという、中大関係者の願いがこの桜植樹という形で実現したのでした。

台湾の人々は、かつて台中近郊の名勝地「日月潭」で、マグニチュード7.9の大地震が発生した時に示された日本の人々の思いやりにお返しをただけだと謙遜しますが、今度は我々がお返しをする番です。



▲茶会の様子

今年、記念行事として、「日本伝統文化を発展させる会」の会長であり表千家の師匠である和田政子さんや土屋かおりさん、中大茶道部学生諸君のご協力を得て、「中正記念堂」で盛大な茶会を催しました。阿里山茶や鉄観音茶などウーロン茶の名産地台湾で、日本の茶会をという大胆な試みでしたが、見事に成功し、入れ替わり立ち代わり5百名に近い参加者がありました。

一行45名、楽しくまた意義の深い旅行だったと確信しています。

もう一つ、望外の喜びがありました。茶会当日、前半のセレモニーが終わった後、

年配のご婦人が私に近づいてこられ、40年前に私に教わった仏文の卒業生ですと名乗られたのです。40年前と言えば大学紛争直後、彼女は半年のフランス留学から帰って私に卒業に必要な単位をもらったとのこと。私は記憶になかったのですが、よく顔を拝見するうちに何となく年頃だった彼女の面影を思い出しました。

グループ旅行で台湾に来てたまたまこの式に列席していたら、私が紹介されたのを見てびっくり、懐かしさから声をかけてくれたそうです。「世間は広いようで狭い」などよく言いますが、まさか日本を離れて、40年ぶりにお会いするとは、「世界はせまくなった」としが言いようはありませんでした。人と人の不思議な縁に心から感動した次第です。

縁といえば、大学セミナーハウスもそうです。一期一会などではなく、私とこのご婦人のようなケースもありますから、セミナーハウスでのつながりがまたいつどこで生きてくるか判りません。野猿峠の出会いがやがてアメリカ、フランス、中国、ベトナムなどで蘇る可能性も充分あると思います。

セミナーハウスに集う皆さん、この次はどこでめぐり合いのチャンスが訪れるか、思うだけでも楽しいではありませんか。

館長 鈴木 康司



▲日月潭のホテルにて



Plain living and high thinking

セミナーハウス・ニュース No.186
発行=公益財団法人 大学セミナーハウス
2014年5月発行

発行人=鈴木康司 発行部数=5,500部
編集=八王子セミナーハウス セミナー・留学生グループ
制作=アトリエいちのへ